

予算決算福祉文教小委員会審査報告

令和3年3月16日

予算決算常任委員長 渡 邊 千賀雄 様

福祉文教小委員長 伊 藤 まゆみ

本小委員会に付託された事件にかかる審査内容及び主な質疑、意見等について、次のとおり報告します。

記

事件の番号	付 記 内 容
議案第22号	令和3年度飯綱町一般会計予算中、 民生費、衛生費、労働費（シルバー人材センター運営事業） 教育費及び関係歳入

第3款 民生費

□保健福祉課

質疑①：障害者総合支援給付事業が前年度増減で△517万3,000円となっている理由は。

回答①：各福祉サービス費の減少や給付者数の減等による。

質疑②：地域生活支援事業の相談支援事業委託料が、360万円と拡充されている理由は。

回答②：地域活動支援センターにおいて、重層的支援体制の構築に合わせてひきこもり等の相談支援事業の拡充を図るため、184万円増額とした。

質疑③：給付金が減っている理由は障がい者数の減少によるものか。

回答③：障がい者数も若干の増減があるが、利用者の体調により、毎年、サービス区分や利用量が変わるためである。

質疑④：障害者総合支援給付事業の中に精神の方は入っているのか。

回答④：精神の方も入っている。

質疑⑤：65歳になると介護保険の対象になる。障がいを持っている人が福祉サービス

を利用する場合、今まで自己負担はなかったが、介護サービスになると自己負担額がかかる。福祉と介護、どちらかに偏ったりしないのか。

回答⑤：利用される方のサービス内容により、福祉か介護、どちらのサービスにするか選べるため、年齢により介護保険へ移行するわけではない。

質疑⑥：自己負担金について、どのように説明し理解を得ているのか。

回答⑥：サービスについての相談を受けた際、サービス内容や利用料などについて説明し理解を得ている。

質疑⑦：メーラプラザで実施しているパワリハは利用者が多く、新規登録が難しい状況であり、今後実施されるいいづなコネクトイーストも一杯と聞く。高岡地区でも実施してほしいとの強い要望があるので、社協と十分協議して検討してほしいがいかがか。

回答⑦：高岡地区のことは、社協からも聞いている。いいづなコネクトイーストの構築がこれからなので、状況を判断して考えたい。

質疑⑧：成年後見の中核センター共同設置は新規事業か。社会福祉協議会法人成年後見については、なぜこれだけ費用がかかるのか。

回答⑧：国から各市町村に中核センターの設置が求められており、新規事業である。事業を実施するための資格は単年では取得できず、準備が必要である。そのための費用として、人件費や消耗品などを含め 50 万円としている。

質疑⑨：成年後見人が必要なことは理解している。弁護士や司法書士など裁判所に届出をしている人の中から、裁判所が選任して後見人となる。そのような制度が面倒なのか、足りないのか、利便性を高めるために中核センターの設置や社会福祉協議会の法人成年後見を行うということか。今後、事案が増えると見込んでのことか。

回答⑨：中核センターの共同設置により、様々なケースの相談事例が集約でき、困難なケースへの対応も可能となる見込みである。また、現在は司法書士が対応にあたっているが、事案が増加し、対応に手一杯になりつつあることから、社協として法人成年後見人になれるように準備を進めている。資格を得るには研修など時間もかかるが、重層的支援体制を構築していく中で、顔の見える関係で業務を担うことで、意思決定の支援を手伝えることになる。地域福祉計画 32 ページに記載のとおり、法的には町が基本計画をつくり、制度利用に関して具体的な方策を定めていくよう努めることとされている。

質疑⑩：飯綱町の後見制度利用人数は把握しているか。

回答⑩：長野家庭裁判所から提供を受けた資料によると、令和元年 12 月末での利用者は、成年後見 19 件、補佐 3 件、補助 1 件、計 23 件である。

質疑⑪：社協へ法人の成年後見を委託していくにしても、より良い方法を考えていくことが必要では。

回答⑪：町としても成年後見制度の利用促進に対してこれまで以上に主体的に取り組むことが求められており、普及促進に努める。

□住民環境課

質疑なし

□教育委員会

質疑①：令和3年度と令和2年度を比較してマイナスになっているのが多いのはなぜか。

回答①：りんごっ子保育園については、加配保育士が1名減、前年園舎の修繕を行ったが来年度は行わないため減になっている。給食費については、保育園児数の減によるもの、また、会計年度任用職員の入替えのため減となっている。南部保育園については、会計年度任用職員の人数の減が主な理由である。

質疑②：土曜日保育はさみずっ子保育園だけか。

回答②：さみずっ子保育園だけである。春休み期間中は3園で実施している。

質疑③：土曜日保育の利用園児数は。

回答③：5人から10人の間。

質疑④：土曜日保育は1日預かりか。

回答④：午前7時30分から午後7時まで。

質疑⑤：RPA在宅ワーク実証実験は就職に役立つか。RPAを使った仕事の創出は。

回答⑤：コロナ禍で大変難しくなり、リモートを試みたが大変難しかった。来年度は実際に行う簡単な仕事を実践的にチームで作るよう計画している。

質疑⑥：ふるさと納税関係の仕事では進まないか。

回答⑥：ふるさと納税とは直接関わっていない。

質疑⑦：児童クラブの一般管理費が減となっている理由は。

回答⑦：令和2年度は赤東児童クラブの遊具設置工事が計上されていたため。

質疑⑧：ファミリーサポートの充実策は。

回答⑧：提供会員のプロフィールを施設の中に掲示し、妊娠期からの周知を図りたい。このような制度があって、このような託児をやるというところから始めたい。

質疑⑨：以前は5か所で開いている児童クラブの指導員が集まって課題について会議を行ったり、学校との調整をしていた。現状は。

回答⑨：児童クラブ指導員の会議は代表者会議を夏休み前に実施している。学校との調整は児童クラブの始まる年度当初に学校と指導員の会議を行い、情報を共有している。

第4款 衛生費

□保健福祉課

質疑①：特定健診等の受診率が低いのが、向上させるための方策は。

回答①：広報や保健師による電話勧奨などで受診を勧めていく。

質疑②：一人暮らし老人や老人世帯に対しては、保健補導員の声掛け等も考えていっ

たらどうか。

回答②：検討したい。

□住民環境課

質疑①：北部衛生施設組合のし尿処理施設は廃止の方向と解釈した。令和5年度頃までに新しい処理体制を構築していくとのことだが、どのような方法で処理していくのか。現時点で、し尿を処理できる施設は決まっているのか。また、令和5年度までに組合自体を解体・解散していくということか。

回答①：信濃町の動向も踏まえ、検討段階。今後の処理方法はいくつかあるが費用対効果を踏まえて検討している。組合の解散等についてはこれから検討するため、まだ決定する段階には至っていない。

質疑②：協議の結果、信濃町分のし尿まで飯綱町で引き受けることにはならないか。信濃町との話し合いは進んでいるのか。

回答②：現在、両町がそれぞれで検討している段階。北部衛生施設組合についても最低限の維持管理ができるよう施設補修等の予算を計上している。

質疑③：し尿処理調査事業に「設計業務」とあるが。

回答③：単独処理も一つの方法として念頭に置いて予算計上している。

質疑④：工事費等全体的なことを含めて考えると、飯綱町単独で処理を行うのが良いのではないか。議員全員に対して説明する予定はないか。

回答④：繰り返しになるが、現在、両町がそれぞれで検討している段階。北部衛生のし尿処理施設については、想定以上に投入量が減ってきており、運転管理の継続が難しくなっている。今後、更に処理人口が減少することを踏まえ、検討している。議会への説明については、今後行うこととなる。

質疑⑤：環境対策費について、以前は地区の監視員が一斉清掃の時に同行し、不法投棄の現地を案内してくれ、片づけ作業がはかどった。現在は不法投棄対策業務を長野シルバーに委託しているかと思うが、委託人数等の状況は。

回答⑤：不法投棄対策業務は長野シルバーに2名委託している。11月まで概ね週1回のペースで町内全域を回ってもらっている。以前の監視員制度は不法投棄の発見と役場への報告までだったが、シルバーへは発見と回収までを業務として委託しており、結果として回収量が大幅に増加した。一斉清掃との関わりは薄くなったかもしれないが、回収するごみの全体量については格段に増えた。

質疑⑥：出前講座でごみの分別について職員から説明を受けた際、例えば、スナック菓子の袋などで裏にアルミコーティングしてあるものや油が落ちないものは可燃ごみとして処理するよう説明を聞き、認識を新たにされた。分別方法は変更されていくものなのか。また、その場合、変更された内容の周知方法は。

回答⑥：汚れが落ちないカップラーメンの容器は可燃ごみとするように指導しているが、周知の徹底には至っていなかった。可燃ごみを減らすという命題に向け、適切な分別を進めるため、周知徹底を図りたい。

質疑⑦：長野広域連合議会で、プラスチックと可燃ごみの分別を徹底するよう意見が出ている。各区・組に対して積極的に説明を行うべき。また、男性に比べてごみの分別を扱う機会が多いであろう女性向けの周知方法を考えて欲しい。

回答⑦：周知方法を検討する。

第5款 労働費（シルバー人材センター運営事業）

□保健福祉課

質疑なし

第10款 教育費

□教育委員会

質疑①：町外中学生への通学定期補助についての可能性は。

回答①：今後検討して行きたい。

質疑②：高速大容量校内LANは現在動いているか。

回答②：本年度整備している。

質疑③：遠隔学習用モバイルルータは何台分を想定しているか。また貸出規定は。

回答③：小学校分は30台2か月分、中学校分は40台2か月分である。貸出規定は今のところ策定していないが、来年度策定するよう考えている。

質疑④：校務支援システムとは何か。

回答④：県推奨のシステムで、今年度から運用を開始している。教職員等の通知表や指導要録、出席簿、予定表、保健関係のデータをシステム化するもので、県下統一のシステムとなっている。児童生徒、教職員等の異動があっても情報を共有できる。

質疑⑤：加配教員が増えているが今後の見込みは。統合時から1校2クラスとしてきたが、生徒数減少のため、近い将来、1クラスまたは1校にするなどの検討はされているか。

回答⑤：支援員の数が大きく増えている要因は、統合時、三水第二小学校の激変緩和措置で三水小学校を2学級にするという方針としてこれまで配置してきたためである。クラス数の検討については、出生率が減少していった際には検討しなければならないが、もう少し様子を見たい。

質疑⑥：子どもの数を増やすには移住を進めるということになるが、過疎対策費等を活用して山村留学を進めることはできないか。

回答⑥：山村留学をした子が卒業後に定住せず、都会へ帰ってしまうことが多い。人口が減ったから山村留学ということではなく、全体的な移住を進めていくことがよいと思う。

質疑⑦：社会体育一般管理費が前年に比べて金額が増えた理由は。

回答⑦：主要事業には載っていないが、三水小学校のトイレ設置費 372 万 8 千円による。

歳入

質疑なし